

(寄稿記事)

アメリカでの自動車の運転について

2010年8月



Japanese Assistance Network, Inc.

稲田 寛

© 2010 JAN, All Rights Reserved

*ご注意：この寄稿記事の内容につき、アメリカ州政府協会（ASOA）において何ら責任を負うものではありません。
また、運転免許証の具体的な取得方法は各州の州法で異なりますので事前にご確認の上各州法に従ってください。

はじめに

アメリカは世界最大の自動車王国です。日本の 25 倍という広大な国土で、自動車はフォードの大量生産が始まって以来、生活に必要不可欠な移動手段となって来ました。また、ガソリン価格の高騰、地球温暖化問題などから燃費効率の良い中型、小型車や ECO カーが増えてきたといっても、まだまだ大型の SUV（スポーツ用多目的車）やピックアップ（小型）トラックの人気も捨てたものではありません。過去 27 年で最低だった昨年でさえ、1040 万台（ピークの 1700 万台の 40%減）の乗用車販売数のうち、50%強は SUV と小型トラックが占めているのです。その理由は、荷物車を牽引したり、道路のないようなところへも入って行けることにあるのですが、さらに大きさと頑丈さの点から、安心して運転ができるとも考えられているようです。また、アメリカでは自動車と毎日の生活は切っても切り離せないものとなっているため、ドライバーには女性やシニアも多く、また 10 年、20 年物の古い自動車も数多く走っています。

貨物輸送には長距離トラックが多く使われますが、長い荷台、2 つの荷台の連結など日本では見られない大型タイプがあり、一方、乗客をもてなすためのストレッチリムジンもあります。これは高級車を前後二つにカットして間に対面座席を継ぎ足した長い豪華車両です。また、郵便局の小型配達車はアメリカで唯一右ハンドルに作られ、座席から降りずに道路脇のポストに郵便物を配達することができるようになっています。

マンハッタンなど大都市中心部を除き、ほとんどの人々が一人で車を使って通勤し、移動し、生活し、また用途に応じて考えられたユニークな車が走りあっているそれが車社会のアメリカです。

運転の違いと法律の違い

アメリカでの車の運転には、左ハンドル、右側通行という日本との大きな 2 つの違いがあります。また、ほとんどの州では（赤信号）右折不可の標識が無い限り、赤信号右折可となっています。ただ、NY マンハッタン地域は 全域がそうであるため標識はありません。これはマンハッタンを運転する人すべてが知っておかなければならない交通法規です。

日本での運転歴がある人は、信号で一番前に止まって左右に曲がる時には、つい左側車線に入りそうになってしまいますので要注意です。また、左右ターンのシグナルレバーが日本と逆の左側についていますので、ターンシグナルの積りでついワイパーを動かしてしまいます。慣れるまでは右側通行、シグナルレバー左の注意書きを運転席正面のどこかに貼り付けておくことも効果があります。

また、アメリカでは常に歩行者優先で運転してください。歩行者が交差点を横断する場合、完全に渡りきるまで待つ、またジェイウオークと言って、信号がないところを横断している歩行者に対してさえもストップする車が多いようです。また、一般的にホーンはあまり鳴らさない習慣で、安全の為に注意を促す以外、歩行者に対して鳴らすことはほとんどありません。なお、パトカー、消防車、救急車がサイレンを鳴らし、点灯して走ってくる時は、車線を開けて、路肩に一時停止し、走行を妨げないようにしてください。

車両を保有するならば、車両検査に関する法律は安全性の確認と排気ガス規制がありますが、一部の州（カリフォルニア、イリノイ州など）では排気ガス規制だけです。一方、乗員の安全に関しては、シートベルト着用、チャイルドシートの使用、子供の座席指定、運転中の携帯電話の使用方法等々、非常に詳細な法律が定められ、違反に対する罰金も厳しく科せられます。車両検査、安全運転いずれについても州毎に詳細が異なり、また適時、変更もされていますので、DMV や DMV のウェブサイトから最新の情報入手することをお勧めします。ただ、アメリカでは子供を残したまま車を離れる事は、子供の虐待という犯罪と見なされますので注意してください。

高速道路

インターステート（州間）高速道路は、例えば東海岸を縦断する I-95 や西海岸を縦断する I-5 のように、I-XXX（番号）と呼ばれ、全国のほとんどで無料です。またトールウェイやトールロードは有料道路で、東部に多いのですが、全国的にも見受けられます。有料には2通りがあり、区間毎の料金所で数十セントや数ドル程度を支払い、コインがあれば、自動ゲートのバスケットに放り込んでゲートが開くものと、申し込みによって登録された車だけがトランスポンダー（有料区間感知センサー）により通行できるタイプがあります。このトランスポンダーは一般的にI-パスと呼ばれ、使用者は通行料金を前払いすることとなっています。

高速道路の最高制限速度は55マイルから80マイルまで、各州が区間毎に決定し、多くは65-70マイル（105-110キロ）のようです。車の流れに沿った5-10マイルのスピードオーバーが実際に検挙されるケースはほとんどありませんが、制限速度をできるだけ遵守してください。都市部には出入口が多く、間隔も短いようです。また出口表示板には、3つ、4つ先までの出口が表示されています。降りる出口名が一番下に出てきたら、外側車線に移り始めるのが良いでしょう。実線手前の短い破線は出口、または接続する高速ルートへの専用レーンの指示ですので、注意してください。もし出口に気づくのが遅くなった場合、車線をあわてて変更するのは危険なので、次の出口まで行き過ぎて戻ってくることをお勧めします。一般的には高速道路への出入口は近接しており、通り過ぎた出口へ戻れます。

また、通勤時の混雑が多い部分でカープールレーン、またはHOV（複数乗車車両）レーンと呼ばれる2名以上乗車の車が走れる優先レーンが設けられている個所があります。これらのレーンはバイクも走行でき、カリフォルニア州では州発行のステッカーを貼付したエコカーにも走行が許可されています。またこれらレーンへの出入り区間は限定されており、一般には白い破線で指示されています。一人乗りや規定に満たない乗員数での走行は違反として多額の罰金が課せられます。カープールサインには何人の乗車が必要かだけでなく、その条件の設定された週日や時間があればそれも表示していますので注意してください。

高速道路は流れが日本よりもずっと早いことに加え、入口からの合流レーン（入口ランプ）が短く、短距離でのスピードアップが必要な場合もあります。出入り時には特に注意して運転するようにしてください。

交通事故

特に高速道路では非常に多くの事故が発生していますが、通報後の警察、救急車の到着、事故車の撤去と現場確認も非常に早く、交通渋滞をできるだけ速やかに解消するようになってきました。警察はドライバーの免許、保険、車両関連の書類、また飲酒等の違反の有無を確認し、ドライバーの証言を取ります。ドライバーは、事故が自らの責任であろうとなかろうと、それぞれの保険会社に事故報告を行い、あとは保険会社がすべての処理を行いますので、ドライバー同士が直接にコンタクトすることはありません。また事故の目撃者の証言は非常に重要ですので、目撃者があれば、コンタクトを聞いておき、警察に報告すべきです。その後、1 - 2週間ほどで警察から事故レポートが発行されますが、有利な目撃者証言が記載されているかどうかはその後の保険会社同士の交渉に大きなポイントとなります。また、被害者が被害内容の弁済を加害者に請求する場合には、成功報酬ベースで事故専門の弁護士に依頼し、数か月から1年間ほどかけて交渉が続くのが一般的です。

交通違反

アメリカでは許可を受ければ銃器の携帯が認められるだけでなく、不法に所持する者がいるため、警官は交通違反に対する尋問時でも常に最悪の事態を警戒しています。そのため、パトカーに止められた場合、座ったまま車から出ないで警官が来てからの指示を待つこと、また、何かを取り出すような不審な動きをしないことは、身の安全上重要で、警官の指示に素直に従うことが必要です。違反内容をドライバーと確認してチケットを発行するのは、その警官の観察と判断に委ねられているので、違反事実を認めながらも、その行動について適切な説明を行う事ができれば、警告に留まる事もあるかもしれません。

交通法規を遵守した運転が常に必要とされるのは、安全のためは勿論のことですが、また、同時に高額な罰金、ポイント制、トラフィックスクール(交通教室)受講など交通違反に伴う厳しい罰則によって日常生活に支障をきたすことを避けるためでもあります。特に、DUI(飲酒運転・薬物運転)に対しては裁判出頭による高額な罰金だけでなく、免許停止、数カ月間のトラフィックスクールや長年に及ぶ執行猶予期間などの厳罰に処せられ、違反した本人だけでなく家族も含めた生活に大きな負担となります。また、一般的な交通違反だけでなく、車線を頻繁に変更する、突然にスピードを上げるなども危険走行として違反扱いされますので注意してください。

自動車免許取得

アメリカは連邦制のため道路交通法が州法であり、各州のDMV(Department of Motor Vehicle. 自動車局。NJ州ではMVO - Motor Vehicle Commission)が車や運転免許関連のすべてを取り扱っています。DMVが発行する運転免許証は身分証明書(ID、Identity Document)として使われますので、クレジットカードでのショッピング、銀行窓口、アルコール購入の年齢証明などでの提示だけでなく、いろいろな申請・登録などの書類記載にも必要とされます。また運転免許を必要としない人もIDとして使うために非運転証明書(Non-Driver Photo ID)をDMVで申請することができます。このため、他州への転居には免許(=ID)の切り替えが必要とされ、転居後、一定の期間

内に申請することがほとんどの州において義務付けられているようです。

DMV での手続きの詳細は州によって異なり、時々、変更もありますので、最新の情報は、各州の DMV オフィスや DMV サイトにて確認してください。

ここでは、日本人の滞が多いカリフォルニア、ニューヨーク、ニュージャージー、イリノイの 4 州での 2 ステップ (ペーパーテストと実技テスト) の運転免許取得に関する主要な手続きポイントを紹介します。(対象は 18 歳以上、日本免許所有者、ドライバーライセンスは一般乗用車をベース)

ペーパーテスト*	カリフォルニア	ニューヨーク	ニュージャージー	イリノイ
国際免許の有効期間	居住後 10 日	居住後 30 日	居住後 60 日	居住後 90 日
受験費用	26 ドル (クレジットカード以外)	合計で 52 - 90 ドル程 (年齢次第)	10 ドル (現金、チェックのみ)	30 ドル (現金、チェックのみ)
受験場所	どの DMV でも可能	どの DMV でも可能	Wayne, Trenton, Eatontown, West Deptford の他 40 ヶ所で出来る	Chicago West and Chicago North の他、5 ヶ所に限定
記入書類	DL44	MV44	申請書	申請書
ID	パスポート (本名も証明)	州の 6 ポイントチェック**	州の 6 ポイントチェック**	パスポート
住居証明	公共料金・電話請求書、賃貸契約、銀行口座明細書等	(上記 6 ポイントの書類にて確認される?)	公共料金・電話請求書、賃貸契約、銀行口座明細書等	公共料金請求書、賃貸契約、自宅宛て郵便等
SSN (社会保険番号 Social Security Number)	必要。または DMV が国土安全保障省 (DHS) のデータベースにてチェックし、確認できれば不要	必要。または SSN の資格がない旨の SS オフィスの Letter	必要。または SSN の資格がない旨の SS オフィスの Letter、又は SSA-L676 (免許申請日から 30 日以内の日付のもの)	必要。または SSN の資格がない旨の SS オフィスの Letter、又は SSA-L676
その他	指紋・写真撮影・検眼テスト	写真撮影・検眼テスト・サイン	検眼テスト	検眼テスト
ラーナーパーミット (NY 州のみ)		ペーパーテスト合格者が更に、資格所有者の 5 時間講習を受講し、証明を得る		

* テストに関する上記のポイント内容は既に変更されている点もあり得ます。各州の DMV オフィス、DMV サイトにて最新の規定を確認して下さい。

** 州の 6 ポイントチェック: NJ, NY によりポイント書類に違いがあるが、パスポート、ソーシャルセキュリティカード、バンクカードは共通。その他、色々な書類あり。両州の正式なポイントリストを参照すること。

実技テスト***	カリフォルニア	ニューヨーク	ニュージャージー	イリノイ
実技テスト免除 (NJ州のみ)			申請当初に日本の免許と内容証明（NY総領事館発行）を提示し、実技テストが免除（テストを実施される場合も有り）	
予約	予約による受験のみ	予約による受験のみ		ペーパーテスト通れば、同日に受験可能
受験用持ち込み車両 (正常に動作すること)	自己所有、他人所有いずれも可（登録書と保険証明が必要）	自己所有、他人所有いずれも可（登録書と保険証明が必要）		他人所有車、またはレンタカー（登録書と保険証明が必要）
テストコース	DMV の周辺の一般道路	DMV の周辺の一般道路		DMV の周辺の一般道路
テスト結果	同乗の試験官がその場にて合否判断	同乗の試験官がその場にて合否判断		同乗の試験官がその場にて合否判断
免許証	60日間有効の仮免許証が発行され、正式免許証は後日、郵送	90日間有効の仮免許証が発行されラーナーパーミットとセットで有効。正式免許証は後日、郵送	ペーパーテスト合格証をもらい、別窓口へ提出。写真撮影後、24ドルで免許書発行	合格後、写真撮影。その場で TVDL（一時的訪問者用免許書）発行
免許期限	5年目の誕生日、又はI-94期限日までのどちらか早い方	5年目の誕生日、又はI-94期限日までのどちらか早い方	5年目の誕生日、又はI-94期限日までのどちらか早い方	3年間、又はI-94期限日までのどちらか早い方
日本免許証	CA州免許証発行時にDMVで穴を開けられる事がある。穴を開けないように確認することが必要	NY免許証の取得後DMVへ提出するとされているが、60日後の廃棄までに希望があれば返却	提示のみでOK。MVCに差し出す必要なし	

***テストに関する上記のポイント内容は既に変更されている点もあり得ます。各州のDMVオフィス、DMVサイトにて最新の規定を確認して下さい。

Japanese Assistance Network, Inc.

1970年設立（旧社名 Unix Enterprises, Inc.）グローバルホテルチェーン・レンタカー会社への日本語ヘルプサービスを開始。日系海外企業、邦人旅行者への通訳サービスを加えて、1994年より在外日本大使館・総領事館への閉館時緊急連絡サービスを受託。現在、90言語対応、24時間365日体制での世界70公館、また200社以上の緊急事態サポートとコミュニケーションサービス、および海外への事業展開支援サービスを提供している。

米国連絡先： 11135 Magnolia Blvd. Ste. 140 N. Hollywood, CA 91601 USA Tel: 1 (818) 505-6080 Fax: 1 (818) 505-9430

日本連絡先： 東京都千代田区麹町 5-5-302 Tel: 03 (4588)-8785 Fax: 03 (6893)-3761 info@jan24h.com www.jan24h.com

著者： 稲田 寛

パイオニア（株）海外駐在員として南北アメリカでの営業、また販売・生産法人立ち上げを経験。ポルトガル語、スペイン語に精通。現在、Japanese Assistance Network, Inc.にて営業活動中。